

明石公園 城と緑の 景観計画

兵庫県



表紙写真：明石公園 全景
(明石駅前再開発ビルから望む)

明石公園 城と緑の景観計画

目次

1. 業務概要	1
1-1. 目的	1
1-2. 計画策定方針	1
1-2-1 検討範囲	1
1-2-2 整備時期	2
1-3. 明石城・明石公園概略史	3
1-4. 明石公園・明石城の現況	4
2. 明石公園・明石城における景観形成	14
2-1. 明石公園・明石城における景観資源	14
2-2. 景観の分類	15
2-2-1 景観の捉え方	15
2-2-2 景観の一般的な分類	15
2-2-3 明石公園・明石城における景観の分類	17
2-3. 明石公園・明石城の目指す景観	19
2-3-1 城と緑・花による景観形成例	19
2-3-2 明石城の過去の姿	20
2-3-3 目指す景観	21
2-3-4 景観形成の基本的な考え方	22
2-4. 景観形成方針	23
2-4-1 城を活かした公園景観の形成	23
2-4-2 景観形成フロー	24
3. 主要動線と視点場	25
3-1. 明石城のみどころの設定	25
3-2. 主要動線上の景観ストーリー	26
3-2-1 主要動線の設定	26
3-2-2 主要動線におけるシーケンス景観のストーリー設定	27
3-3. 視点場の設定と見せ方の設定	31

4. 景観形成方策	35
4-1. 整備フロー	35
4-2. 特徴的な植物や希少種の保全	36
4-2-1 サクラの保全・樹勢回復	36
4-2-2 その他の保全	39
4-2-3 希少種の保全	40
4-3. 石垣に影響を及ぼす樹木の除伐	41
4-4. 近景の視点場における景観整備	46
4-5. 中景・中（遠）景における景観整備	47
4-5-1 案1：石垣の上部を見せる	47
4-5-2 案2：石垣を透かして見せる	54
4-5-3 案3：みどころを全て見せる	59
4-5-4 比較検討	64
4-6. 視点場への誘導	66
4-6-1 誘導方法の検討	66
4-6-2 ホームページ・パンフレットによる誘導	66
4-6-3 将来的なサイン計画（視点場の案内）	67
5. まとめ	68
5-1. 明石公園の景観形成の考え方 ―目指す景観の創出	68
5-2. シークエンス景観（主要動線におけるストーリー）	69
5-3. 眺望の変化	70
5-4. まとめ	78
5-5. 整備計画	79
5-5-1 平成31年の築城400周年までに優先的に整備を行う箇所	79
5-5-2 平成31年の築城400周年以降段階的に整備を行う箇所	79
5-6. 今後に向けて	81

1. 計画概要

1-1. 目的

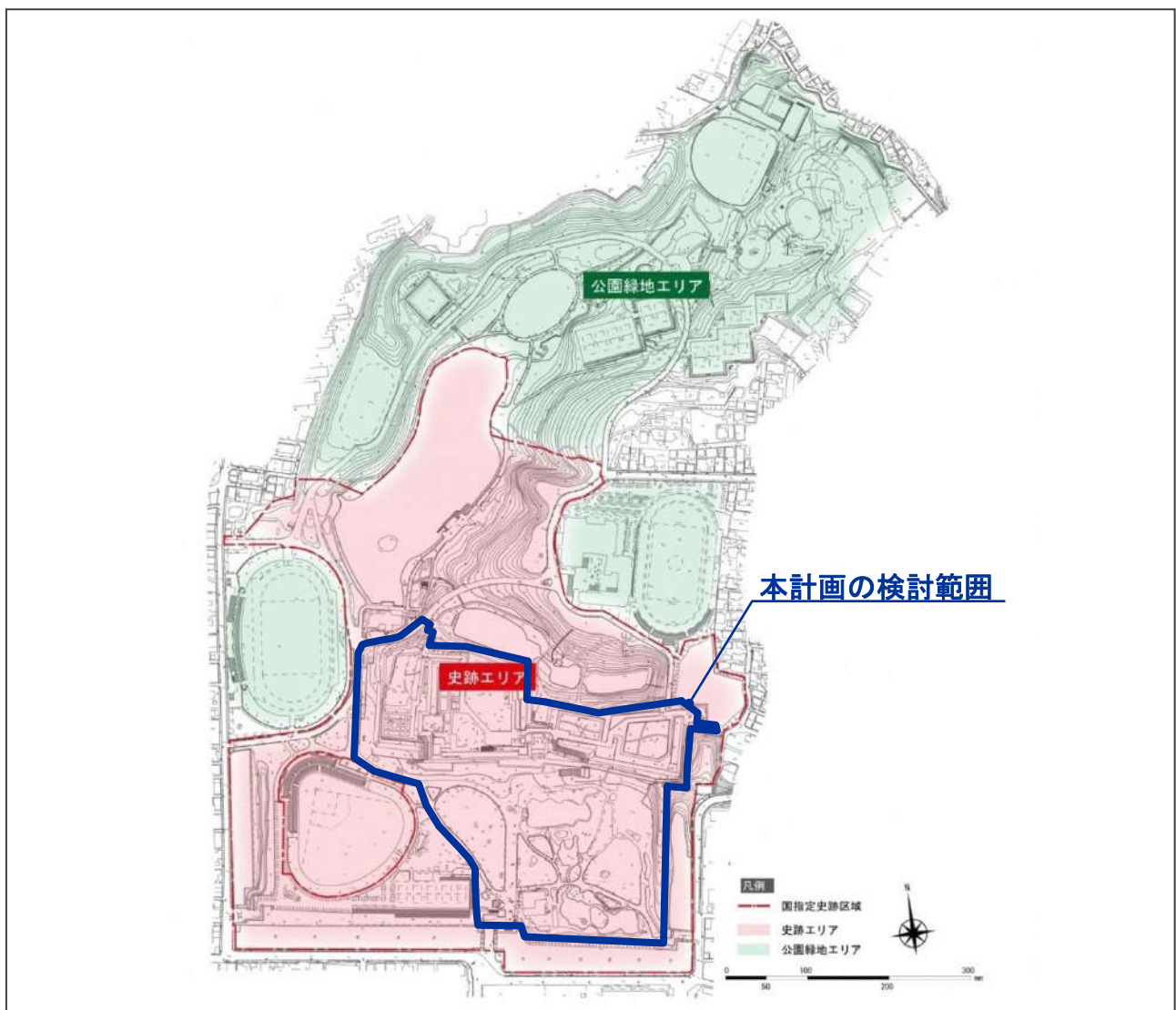
現在、明石公園は、明石城の本丸や中央の石垣前等の樹木が成長・繁茂し、明石城の魅力である全国有数と言われる東西 380mに連なる石垣や櫓の眺望が損なわれている。また、石垣の隙間に樹木の根が入り込み、台風や地震時に石垣を倒壊させる恐れがある。

そこで、樹木の除伐・剪定により、明石城の景観を城と緑の調和がとれたものとするを目的とした「明石公園 城と緑の景観づくり計画」を策定する。

1-2. 計画策定方針

1-2-1 樹木の除伐・剪定検討範囲

本計画の検討範囲は、国指定史跡区域のうち、石垣周辺・内側・南側（下図の青枠線内）とする。

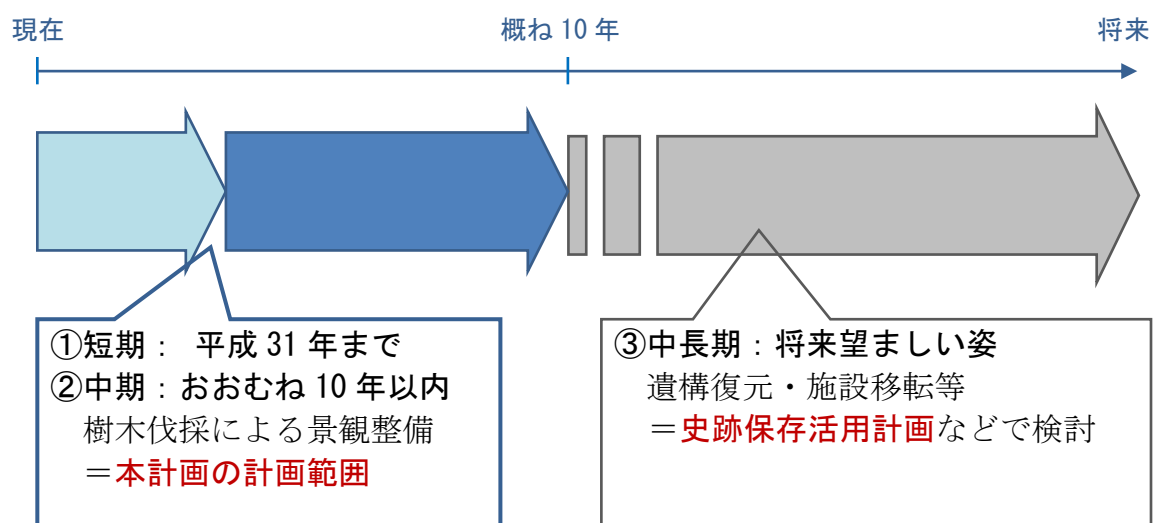


本計画の検討範囲

1-2-2 整備時期

- ・本計画では中期（おおむね 10 年以内）及び短期（平成 31 年の明石城築城 400 周年）の景観整備について設定する。

※長期の景観整備方針は、遺構の復元や施設移転等、明石公園全体の将来像を踏まえて検討する必要があることから史跡保存活用計画などにおいて設定する。



1-3. 明石城・明石公園概略史

明石城・明石公園の概略史は以下のとおりである。

●明石城の築城

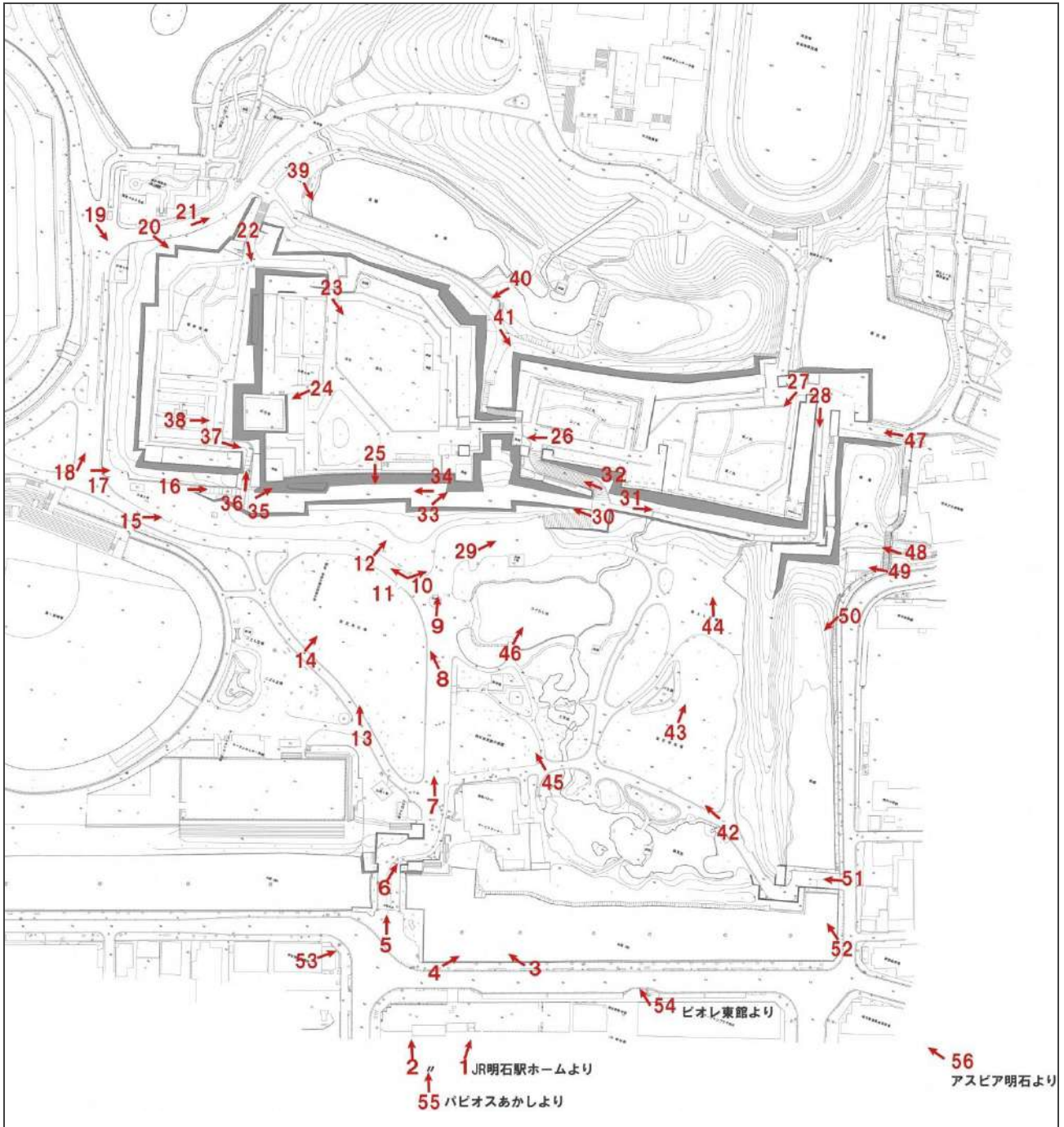
- ・元和 3 年（1617 年）、小笠原忠真(ただざね)が信州松本より明石に国替えとなり、現在の明石城より南西約 1 km のところにあった船上(ふなげ)城に入り、明石藩（現在の明石市東部、神戸市西区、神戸市垂水区、三木市、加東市の一部）が誕生した。
- ・明石城の築城は、元和 4 年（1618 年）に徳川二代将軍・秀忠が西国諸藩に対する備えとして、藩主小笠原忠真に新城の築城を命じたことに始まる。秀忠は、小笠原忠真に姫路城主であった本多忠政の指導を受けるよう命じた。三箇所築城候補地の中から現在の地が選ばれた。
- ・石垣の普請(ふしん)（現在の土木工事）は元和 5 年（1619 年）の正月に始められ、本丸、二ノ丸等の城郭中心の石垣、三ノ丸の石垣、土塁および周辺の堀の普請が同年 8 月中旬には終了した。
- ・普請を終え、同年、小笠原忠真が明石城に入城し、同年 9 月から櫓、御殿、城門、塀等の作事(さくじ)（現在の建築工事）が始められ、同年に概成したと伝えられている。また、櫓等の材料は幕府の一国一城令により廃城となった伏見城や三木城等の資材を用いて建てたとされている。
- ・築城当時の明石城は、本丸に御殿を築き、四隅に三重の櫓を配したが、天守台の石垣が築かれたものの、天守閣は建てられなかった。寛永 8 年（1631 年）の大火により、本丸の御殿、櫓は焼失した。現在の櫓は、寛永の大火後に再建されたものである。
- ・寛永 9 年（1632 年）に小笠原忠真は豊前(ぶぜん)小倉十五万石に天封し、以降、戸田松平氏、大久保氏、藤井松平氏、本多氏、越前松平氏が代々の城主となり、幕末まで越前松平氏が明石藩を治めた。

●廃城から現在 — 県民の活動により明石公園として保存 —

- ・小笠原氏入封から 17 代、約 250 年に渡って存在した明石城は、明治 6 年（1873 年）の廃城令により廃城となり、官営地として管理されることとなった。
- ・明治 14 年（1881 年）には明石城の象徴であった櫓の解体が決定されたが、決定を不服とする旧藩士を中心とした明石郡の有志が、明石城跡並びに櫓の保存を国に願い出た。その願いは認められ、明治 16 年（1883 年）明石城跡は民営公園としてスタートした。その後、民営公園から明石郡立公園という変遷を経て、明治 31 年（1899 年）には御料地となり一旦、公園は廃止され、明石城を後の大正天皇の離宮とする計画を立てられたが、計画は後に廃止となった。
- ・大正 7 年（1918 年）に、兵庫県は宮内庁から御料地を借り受けて県立明石公園として開園、昭和 4 年（1932 年）には御料地の全域を買い受け、現在の明石公園の姿に拡大した。
- ・平成 7 年の阪神淡路大震災では、櫓の一部、石垣の約 1/8 が損壊したが修復、平成 12 年 3 月には巽櫓(たつみやぐら)、坤櫓(ひつじさるやぐら)間の土塀を復元した。

1-4. 明石公園・明石城の現況

明石公園・明石城の現況写真を次頁以降に示す。



現況写真位置図



1 JR 明石駅より



5 明石公園入口より



2 JR 明石駅より



6 大手門手前より



3 明石公園南側道路より



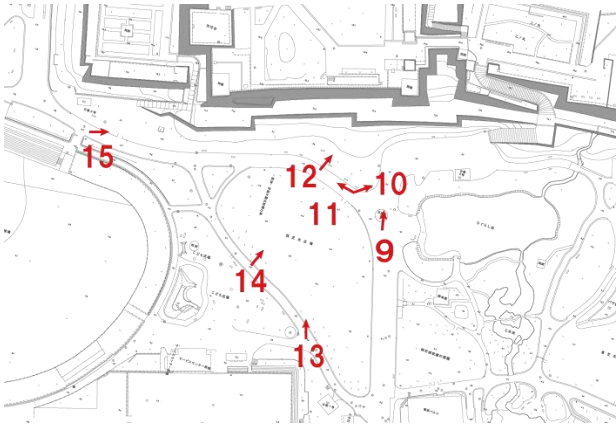
7 サービスセンター西側より



4 明石公園南側道路より



8 武蔵の庭園西側より



写真位置図（抜粋）



12 西芝生広場北側園路より



9 日時計南側より



13 西芝生広場西側園路より



10 日時計西側より



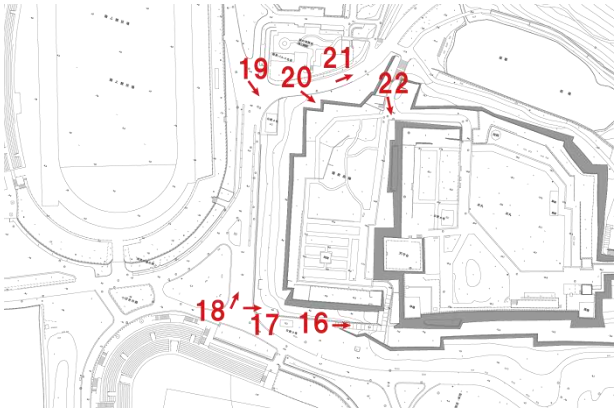
14 西芝生広場西側園路より



11 西芝生広場北側園路より



15 野球場北側より



写真位置図（抜粋）



19 稻荷曲輪西側園路より



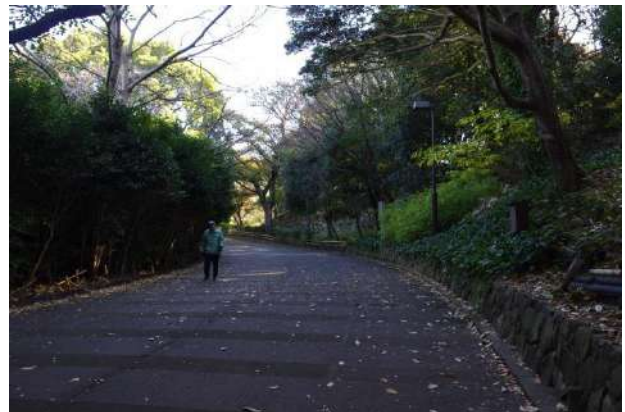
16 帯曲輪西側階段下より



20 稻荷曲輪北側園路より



17 3号トイレ西側より



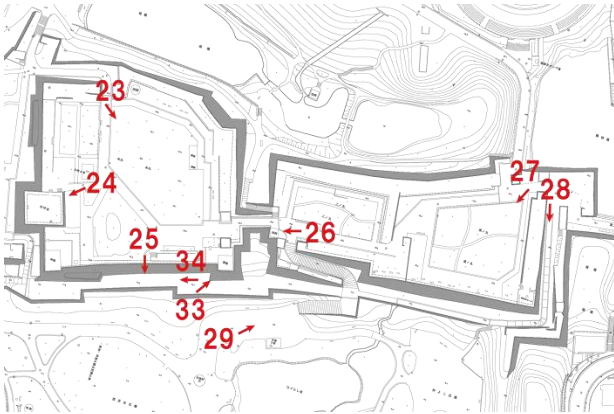
21 稻荷曲輪北側園路より



18 野球場北側より



22 本丸へ上る階段より



写真位置図（抜粋）



26 二の丸園路より



23 本丸入口付近より



27 東の丸東側より



24 天守台東側より



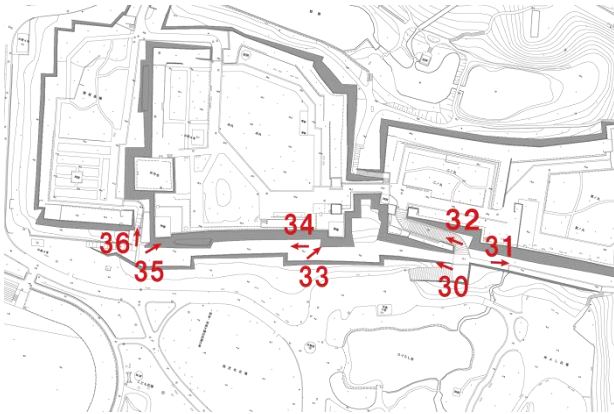
28 東の丸入口付近より



25 本丸展望台より



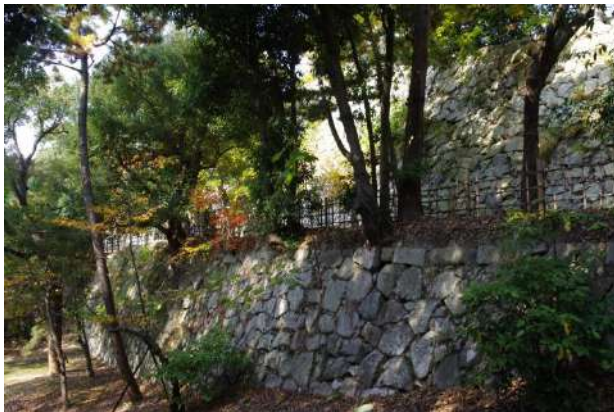
29 帯曲輪中央階段より



写真位置図 (抜粋)



33 帯曲輪より



30 帯曲輪中央階段より



34 帯曲輪より



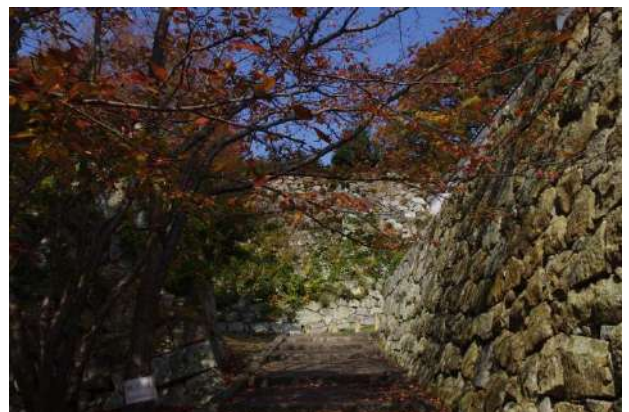
31 南帯曲輪より



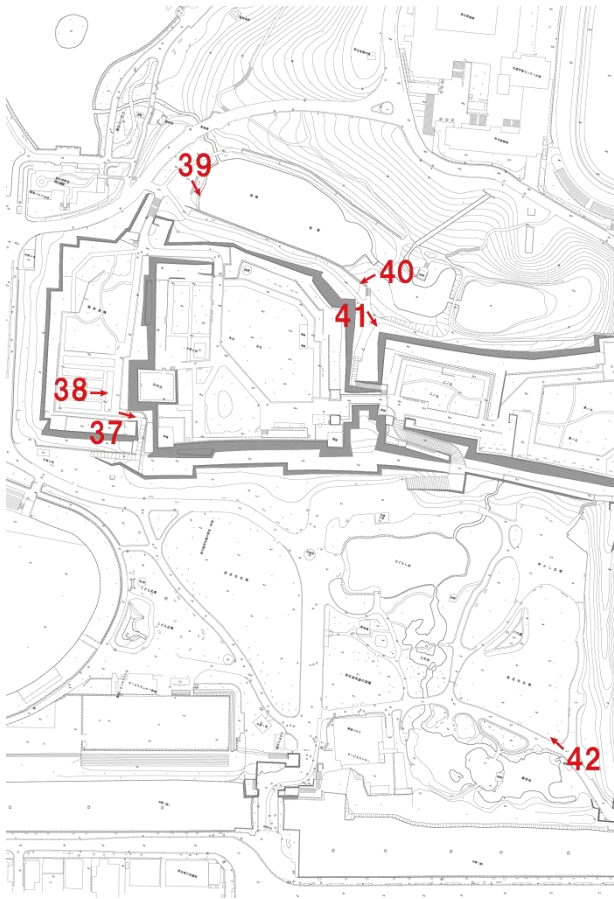
35 帯曲輪より



32 帯曲輪より



36 帯曲輪西端より



写真位置図（抜粋）



39 桜堀西側より



40 桜堀東側より



37 稻荷曲輪より



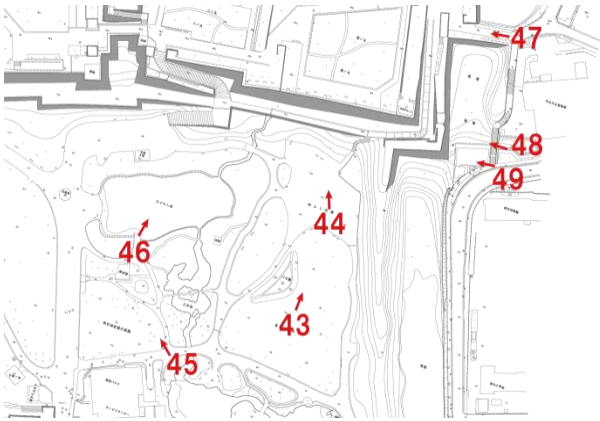
41 二の丸北側より



38 稻荷曲輪西側より



42 東芝生広場北側園路より



写真位置図（抜粋）



46 日ぐらし池北側より



43 仲よし広場



47 東の丸入口より



44 仲よし広場



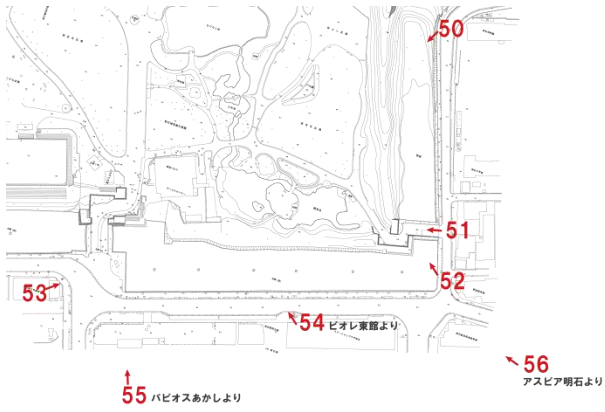
48 歩道橋より



45 武蔵の庭園北側園路より



49 明石公園東側歩道より



写真位置図（抜粋）



53 明石市商工会議所（6F）より



50 明石公園東側歩道と箱掘



54 ピオレ東館（2F）より



51 東入口



55 パピオスあかし屋上より



52 外堀東端より



56 アスパア明石より

現況



- サクラ (213本)
- マツ (237本)
- その他 (検討範囲内)
- その他 (検討範囲外)
- 石垣

2. 明石公園・明石城における景観形成

2-1. 明石公園・明石城における景観資源

計画対象区域における景観資源は、①石垣、②櫓（坤櫓・巽櫓）、③既存樹木、④芝生、⑤外堀、⑥桜堀である。

本計画では、これら景観資源のなかでも特に明石城の魅力であり、全国有数と言われる東西 380mに連なる①石垣や、国指定重要文化財に指定されている②櫓（坤櫓・巽櫓）、明石城の景観に趣を添える③既存樹木や④芝生が調和した景観形成方策について検討する。

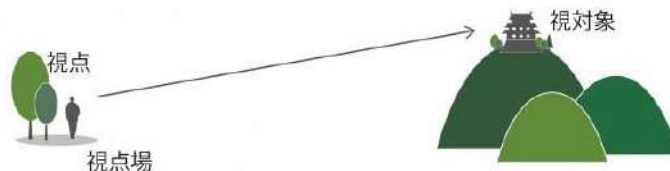
<p>①石垣</p> 	<p>②櫓（坤櫓・巽櫓）</p> 
<p>③既存樹木</p> 	<p>④芝生</p> 
<p>⑤外堀</p> 	<p>⑥桜堀</p> 

2-2. 景観の分類

2-2-1 景観の捉え方

一般に視点と外的な対象との間の視知覚的な関係性と捉えられる。

参考文献：樋口忠彦（1975）『景観の構造-ランドスケープとしての日本の空間』.技報堂出版



2-2-2 景観の一般的な分類

(1) 視点の静動による分類

- ①シーン景観 …ある一点において一方向を向いた観察者の景観を想定しており、風景写真や風景画等の表象とオーバーラップした便宜上の概念。
- ②シーケンス景観 …視点の移動に伴って継起的に変化する景観を説明する概念。

参考文献：景観デザイン研究会（1998）『景観用語辞典』

(2) 視界の広がり度合いによる分類

- ①ヴィスタ …終点あるいは主要な目的物へ向かって方向が定められた眺め
- ②パノラマ …あらゆる角度で見られる全景（山頂からの眺望など）

参考文献：ジョン・オームスビー・サイモンズ/バリー・Wスターク（2010）『ランドスケープアーキテクチャ 環境計画とランドスケープデザイン』



ヴィスタ



パノラマ

(3) 視点から視対象までの距離による分類

①近景（近距離景）

距離：～0.3km

特徴：一本一本の樹木の葉、幹、あるいは枝ぶりなどの特徴が、視覚的に意味を持つ領域。

②中景（中距離景）

距離：0.3km～3km

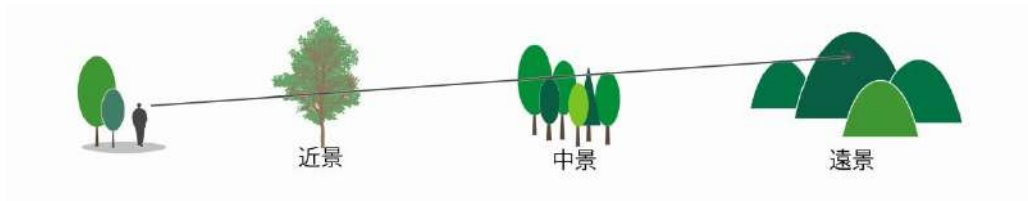
特徴：一本一本の樹木のアウトラインすなわち樹冠は認識できるが、テクスチャーの単位は、一本一本の樹木となり、異種の樹木あるいは樹木群があやをなす領域。最もランドスケープ的な形姿が展開される領域でもある。

③遠景（遠距離景）

距離：3km～

特徴：一本一本の樹木のアウトラインはもはや捉えることができない。ランドスケープにおいては、主として背景としての役割をつとめることになる。

参考文献：樋口忠彦（1975）『景観の構造-ランドスケープとしての日本の空間』.技報堂出版



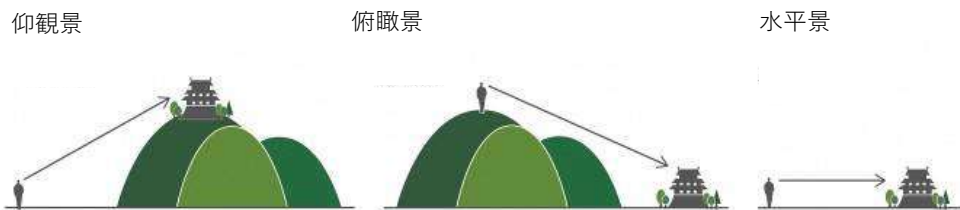
（4）視対象と視点の角度による分類

①仰観景 …視点から視対象を見上げる場合

②俯瞰景 …視点から視対象を見下ろす場合

③水平景 …視点と視対象が同じ高さの場合

参考文献：樋口忠彦（1975）『景観の構造-ランドスケープとしての日本の空間』.技報堂出版
景観デザイン研究会（1998）『景観用語辞典』



（5）構図的概念による分類

①主景…見せ場となるポイント、眺望の焦点

②添景…全体を引き立たせるための人、物

参考文献：樋口忠彦（1975）『景観の構造-ランドスケープとしての日本の空間』.技報堂出版

（6）その他

その他にも倒景、透景、借景など、さまざまな種類がある。

参考文献：樋口忠彦（1975）『景観の構造-ランドスケープとしての日本の空間』.技報堂出版

2-2-3 明石公園・明石城における景観の分類

(1) 視点の静動による分類

① シーン景観

…明石城の石垣や櫓を眺望できる景観。

来園者が立ち止まり眺望を楽しむと想定される場所からの眺望。視点場。

② シークエンス景観

…園内を散策する際に見る、動的・連続的な景観。



シーン景観



手前の樹木が視界を遮り、石垣・櫓が視認できない。



歩く



視界を遮っていた大径木通り過ぎたことにより、石垣・櫓が若干視認できるようになる



歩く



さらに移動することにより、樹木と視対象の位置関係が変わり、石垣・櫓が障害なく視認できるようになる。

シークエンス景観

(2) 視界の広がり度合いによる分類

① ヴィスタ …明石公園には主要な目的物（櫓）に向かって軸線が通った景観は存在しない。そのため、本計画ではヴィスタについては考慮しないものとする。

② パノラマ …本丸から園内を一望できる地点からの眺望。



パノラマ景観

(3) 視点から視対象までの距離による分類

近景・中景・遠景の考え方は、海や山並みなど、大規模なものを対象としているが、本計画において策定する主要な視対象は石垣・櫓であり、海や山並みに比べるとはるかに小規模なものである。したがって、本計画においては、近景・中景・遠景を以下のように設定する。

①近景

距離：対象物の直近

特徴：石垣や櫓を構成する石材の細部まで確認が可能な距離および樹木一本程度で櫓の視認性が害される距離からの眺望。対象物の直近とする。



近景

②中景

距離：主に園内

特徴：石垣の細部までは確認できないが、対象物の概ね全域を見渡せる距離からの眺望。主に園内からの眺望とする。



中景

③中(遠)景

距離：園外

特徴：風景の一部として石垣を確認できる位置からの眺望。園外からの眺望とする。



中(遠)景

(4) 視対象と視点の角度による分類

①仰観景 …櫓直下からの景観など。石垣・櫓を見上げる景観。

②俯瞰景 …本丸展望デッキから明石公園を見下ろす景観など。視対象は石垣・櫓ではない。

③水平景 …JR 明石駅ホームからの景観など。石垣・櫓と視線が同じ高さの景観。



仰観景



俯瞰景



水平景

(5) 構図的概念による分類

①主景 …本計画では主に石垣および櫓を主景とする。

②添景 …本計画では主に樹木を添景とする。



主景・添景

2-3. 明石公園・明石城の目指す景観

2-3-1 城と緑・花による景観形成例

他城では、城郭構造物と樹木・花により次のような景観が形成されている。

	<p>城名 : 弘前城</p> <p>所在地 : 青森県弘前市</p> <p>特徴 : <u>桜により城郭を演出した景観</u></p> <p>堀の外側は桜並木が形成されており、周辺環境と城郭の調和を図っている。一方内側には樹木が少なく、櫓が視認しやすい。</p>
	<p>城名 : 丸亀城</p> <p>所在地 : 香川県丸亀市</p> <p>特徴 : <u>曲輪上の樹木の上に石垣を見せ、石垣の立体感が表現された景観</u></p> <p>マツをはじめとした周囲の樹木が添景となり、主景である城郭を周辺環境と調和させている。</p>
	<p>城名 : 今治城</p> <p>所在地 : 愛媛県今治市</p> <p>特徴 : <u>透景を見せることにより、城と緑が調和した景観</u></p> <p>石垣周辺に高木が点在し、樹木の間から石垣が視認できる。</p>

2-3-2 明石城の過去の姿

(1) 江戸時代

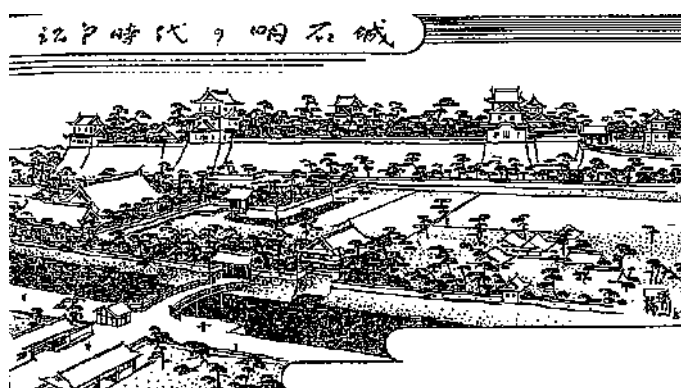
江戸時代の明石城の様子を伝えるものとして「西海航路絵巻」(江戸時代後期)がある。航路絵巻は、航行の際目印になるように正確に描かれている。航路絵巻によれば、石垣周辺に適度に樹木が植えられており、明石城は、櫓、石垣、樹木から認識されていたことがわかる。

また、「日本名勝図絵」によると、主に石垣上部(本丸)や土塁・土塀のそばに植えられており、樹木の上部に石垣が見える景観を呈している。



西海航路絵巻

(兵庫県立歴史博物館蔵)



日本名勝図絵

出典：辰巳信人「歴史の証人 明石公園」
(江戸時代の景観を描いているが、
1980年代に描かれたものである)

(2) 明治時代

明治6年(1873)の廃城以降、櫓解体などを乗り越え、民営「明石公園」として親しまれていた明石城跡は、明治30年(1897)皇太子(後の大正天皇)の御用邸候補地として選出され御料地となった。また、開園以前に英国人が「明石城跡を公園にしたい」と借用を願い出たことから、景観に優れていたことが読み取れる。

下図より、マツのみの景観であった江戸時代に比べ、樹種が多様となったことが読み取れ、樹木量は圧倒的に増加しているが、樹木の上部に櫓・石垣が存在しており、櫓、石垣の高さや長さ、隅部が確認できる景観を呈している。

御料地として選定された理由も、明石城と緑が織りなす風致が、御用邸として相応しいと判断されたためである。



明治時代の様子(明治23年の銅版画)

2-3-3 目指す景観

西海航路絵巻、日本名勝図絵を参考にすると、江戸時代、明石城にはマツが植えられていた、緑豊かな城であったと思われる。また、西海航路絵巻によれば、石垣周辺では適度にマツが植えられた絵となっており、明石城は、櫓、石垣、マツが特徴的な姿として認識されていたことがわかる。従って、江戸時代の明石城はマツ等の緑の上に石垣や櫓の姿が見える景観であったと想定される。

明治時代以後の明石城は、景観資料（名勝図絵、絵葉書等）によると、樹種が多様になり、石垣下部は樹木の繁茂により視認しづらくなっているが、櫓や石垣の長さ、隅部は確認できる。また、外国人からの借用願、民営公園化、御料地化等の経緯より考察すると、石垣・櫓が主景、多様な樹種が添景となった、象徴的な景観が公園として評価されていたと考えられる。

現在の明石城は、公園としての利用度が高く、多くの方に利用され「都会のオアシス」として親しまれている。明治時代と比較して樹種が多様になっており、樹木がより繁茂しているため、史跡エリア全体において石垣・櫓が視認しづらい状況となっている。

明石公園は、平成30年には、明治150年、兵庫県政150周年、県立明石公園100周年、平成31年には、築城400周年など記念の年を迎える。

特に県では、平成31年に迎える築城400周年の記念事業にあわせ、明石城の魅力である石垣や櫓を広く情報発信することとしている。

以上より、本計画では明石城跡の公園化の経緯や現在の利用状況を踏まえ、石垣や櫓を主景、既存樹木を添景として活かしていた明治時代の明石城と公園の多様な緑が調和し、かつ明石城の魅力である櫓や石垣が感じられる景観を目指すものとする。

本計画における、景観テーマを設定する。

**城と公園の多様な緑とが調和し、
かつ明石城の魅力を感じられる
「城を活かした公園の景観」**

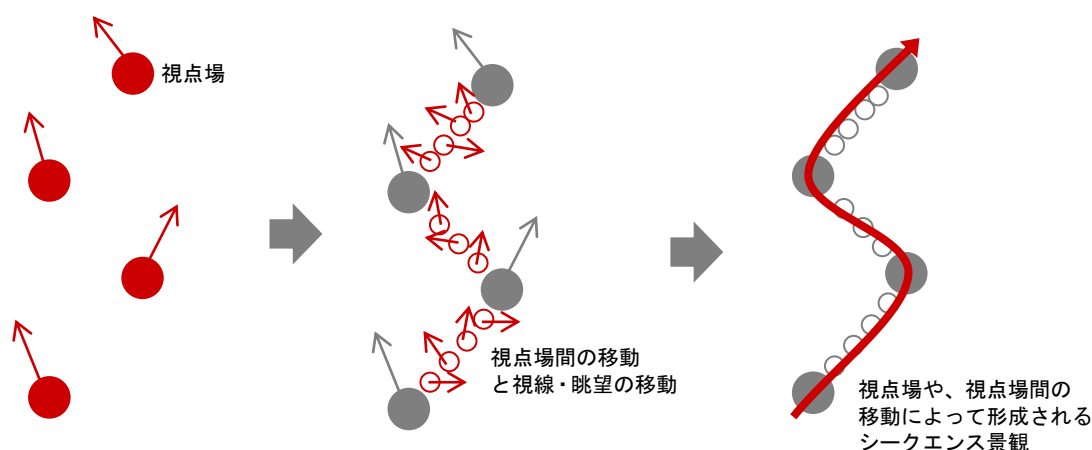
2-3-4 景観形成の基本的な考え方

明石城を見るために明石公園を訪れる人は、城郭を周遊しながら公園の中にある石垣・櫓のある景観を楽しんでいる。また城郭を周遊する際、移動している間も、刻々と変化する新たな眺望（シーン景観）を視認している。

そしてそれらシーン景観の集合体であり、目的地から目的地（視点場から視点場）への移動に伴い変化する連続的な景観が、動的な景観であると考えられる。

明石公園においては特徴的な地点で静的な景観が重要であるのと同時に、移動により刻々と変化する動的な景観（シークエンス景観）も重要であるとする。

したがって、本計画では、主要動線上の主要な地点（視点場）で明石城の魅力である櫓や石垣を観ていただくとともに、主要動線上を移動することで明石城の雰囲気を感じつつ、変化する明石城の景観を楽しんでいただく、シークエンス景観を創出することを目指すものとする。



シークエンス景観と視点場の関係

※シークエンス景観設定の留意事項

ジョン・オームスビー・サイモンズ/バリー・W. スターク（2010）『ランドスケープアーキテクチャ 環境計画とランドスケープデザイン』

・必ずしも正面から見る必要はなく、決められた方向からアプローチする必要はない。

・鑑賞者の移動に応じて眺めが展開するように計画する。

ケヴィン・リンチ（1987）『[新版]敷地計画の技法』

・1つのシーン（ビュー）よりも、連続するシーン（集積効果）の方が重要である。観察者が狭いスロットから広がりにてきた時の解放感は、強い印象を与える。

・瞬間をとるとバランスが欠けているかもしれない。しかしそれは大したことではない。時間全体のなかで補正、バランスが取ればよい。

2-4. 景観形成方針

2-4-1 城を活かした公園景観の形成

本計画では以下により、城と公園の緑が調和し、かつ、明石城の魅力を感じられる明石公園の景観形成を図るものとする。

■創出する景観

- 石垣・櫓が主景、多様な公園の樹木が添景となった景観が評価されていた明治時代の景観を目指す。
- シークエンス景観（動的・連続的な景観）形成のため、景観上、主要動線において明石城の景観を観ていただくストーリーを設定する。また、主要動線上の明石城の景観上、特徴的な場所を視点場（中（遠）景、中景、近景）として設定する。
- 主要動線上では、緑の奥に石垣や櫓が見え隠れする景観（透景）を創出し、主要動線を移動することで、動線上で明石城の雰囲気を感じられ変化する明石城の景観を楽しんでもらえるようにする。
- 視点場では、石垣・櫓を主景とし、適切に整備された公園の緑や花が主景を引き立てる添景となった景観を創出する。

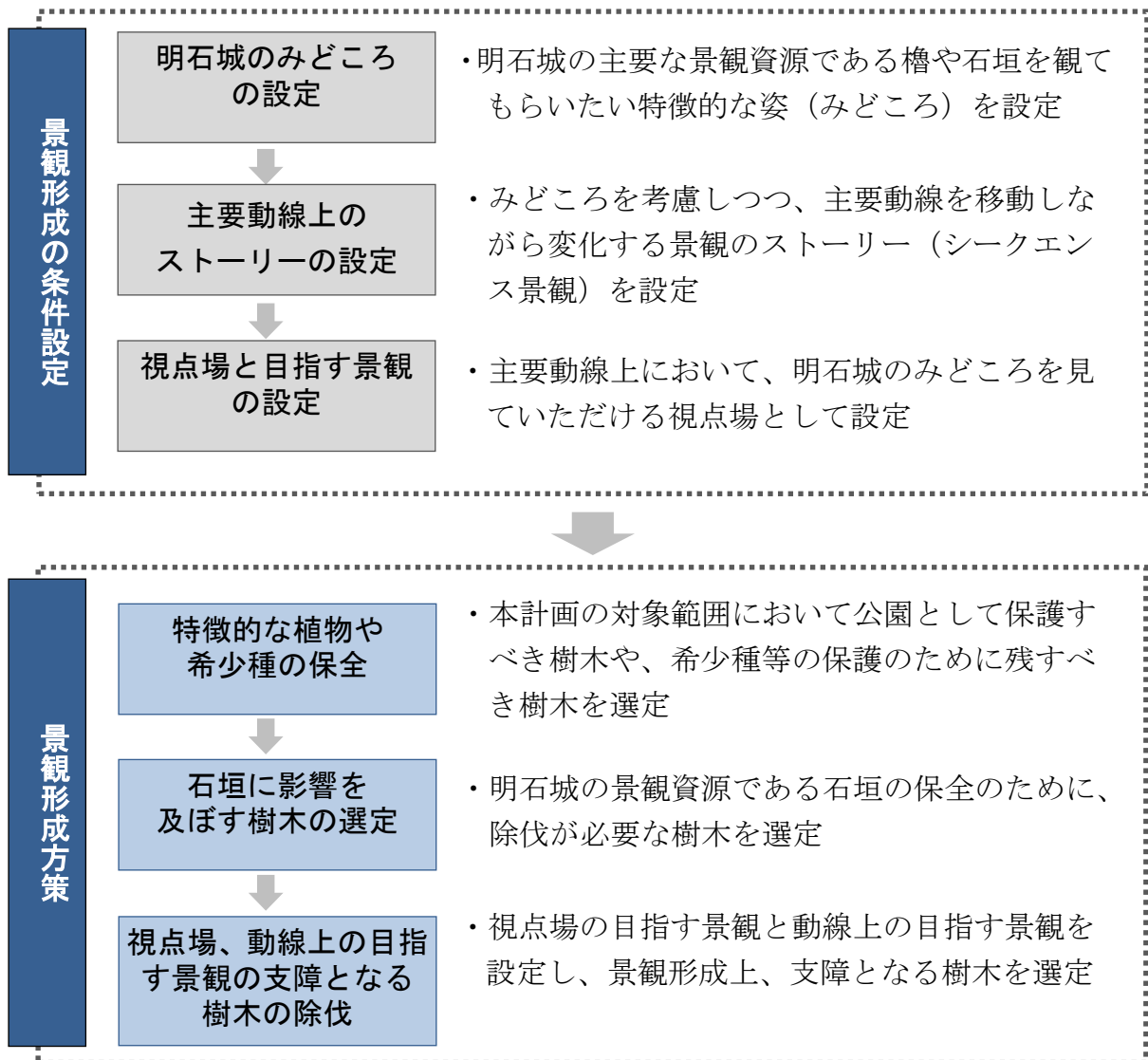
■景観整備の方法

- 明石城の重要な景観資源である石垣など 歴史的遺構保全のため遺構に影響を及ぼす樹木は除伐する。（これまで、石垣及び景観の保全を目的とした管理は行ってこなかった。）
- 視点場や主要導線上の景観整備を、樹木の除伐・剪定により行う。
- 明石公園がさくら名所 100 選の地（日本さくらの会）に選定されるなど、明石公園の特徴的な景観を構成するサクラは、除伐・選定せず、老朽化したサクラの樹勢を回復するなど保全に努める。
- 樹木の除伐にあたっては、希少種の生育・生息環境に配慮する。

□その他（留意事項など）

- 明石公園の景観を楽しんでいただけるよう、案内標識等公園施設の景観に関する課題を整理する。

2-4-2 景観形成フロー



3. 主要動線と視点場

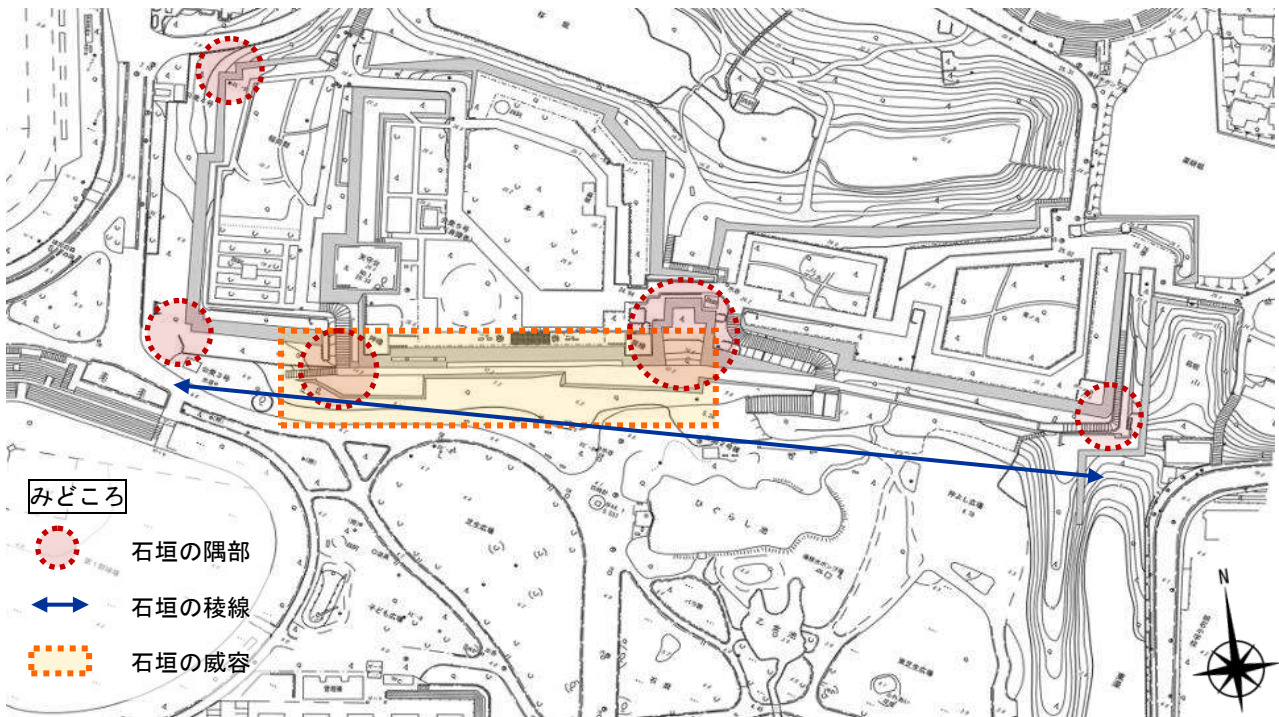
3-1. 明石城のみどころの設定

明石城の魅力は全国有数と言われる東西 380mに連なる石垣や、国指定重要文化財に指定されている櫓（坤櫓・巽櫓）である。

本計画では、石垣を見せることで、石垣上にある櫓の姿を際立たせることができることから、特に、石垣の見ていただきたい箇所や姿を「明石城のみどころ」として設定する。

■石垣

- ・石垣の**隅部**（櫓と共に城郭の存在を主張）
- ・石垣の**稜線**（全国有数の石垣の長さをみせる）
- ・石垣の**威容**（石垣の高さを見せる）



石垣の稜線



石垣の威容



石垣の隅部と櫓

3-2. 主要動線上の景観ストーリー

3-2-1 主要動線の設定

動的・連続的な景観の整備を行うため、主要動線を設定する。

パーソントリップ調査（秋季）（出典：明石公園現況調査（その2）業務委託業務報告書）によると、大手門からの来園者が平日の約4割、休日の約3.5割を占める。退園は平日休日ともに大手門約3割、西出入口（公園北口、陸上競技場南側）約4割、となっている。

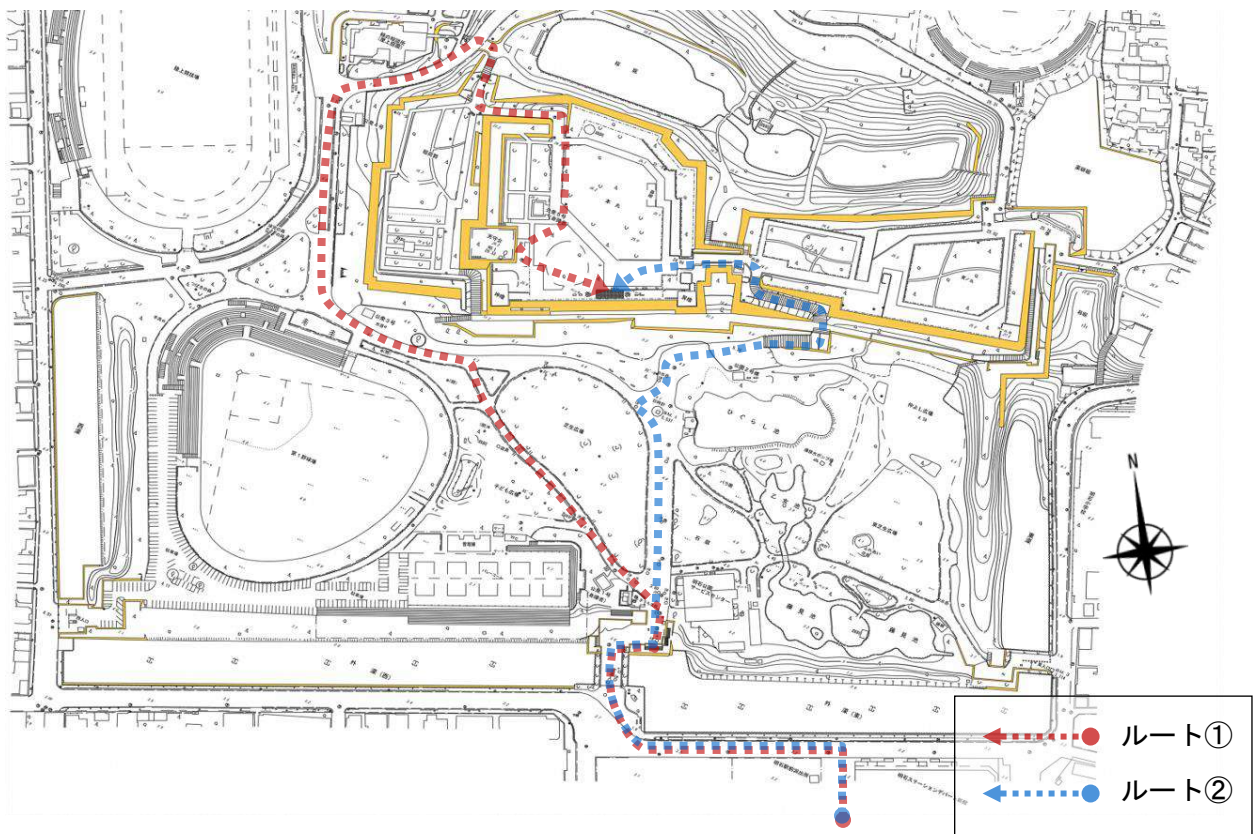
本計画では、明石城を主景とした景観づくりを行うため、みどころ（石垣の隅部、稜線、威容）を見ていただけるよう、明石駅から大手門（正面入口）から本丸へ至る間を、以下のとおり、明石城の遺構が視認できる範囲の主要動線として設定する。

■主要動線

・明石駅から大手門を経て本丸に向かう代表的2つのルート

ルート① 明石駅 → 堀 → 大手門（正面入口） → サービスセンター → こども広場 → 稻荷曲輪西側 → 桜堀 → 本丸 へ

ルート② 明石駅 → 堀 → 大手門（正面入口） → サービスセンター → 日時計 → 帯曲輪南側階段 → この丸 → 本丸 へ



主要動線の設定

3-2-2 主要動線におけるシーケンス景観のストーリー設定

設定した主要動線を歩くことで、以下のような景観を楽しみ、明石城の景観に感動していただけるように、景観づくりを行うこととする。

① 誘う景観（中遠景：JR明石駅プラットフォームからの眺望）

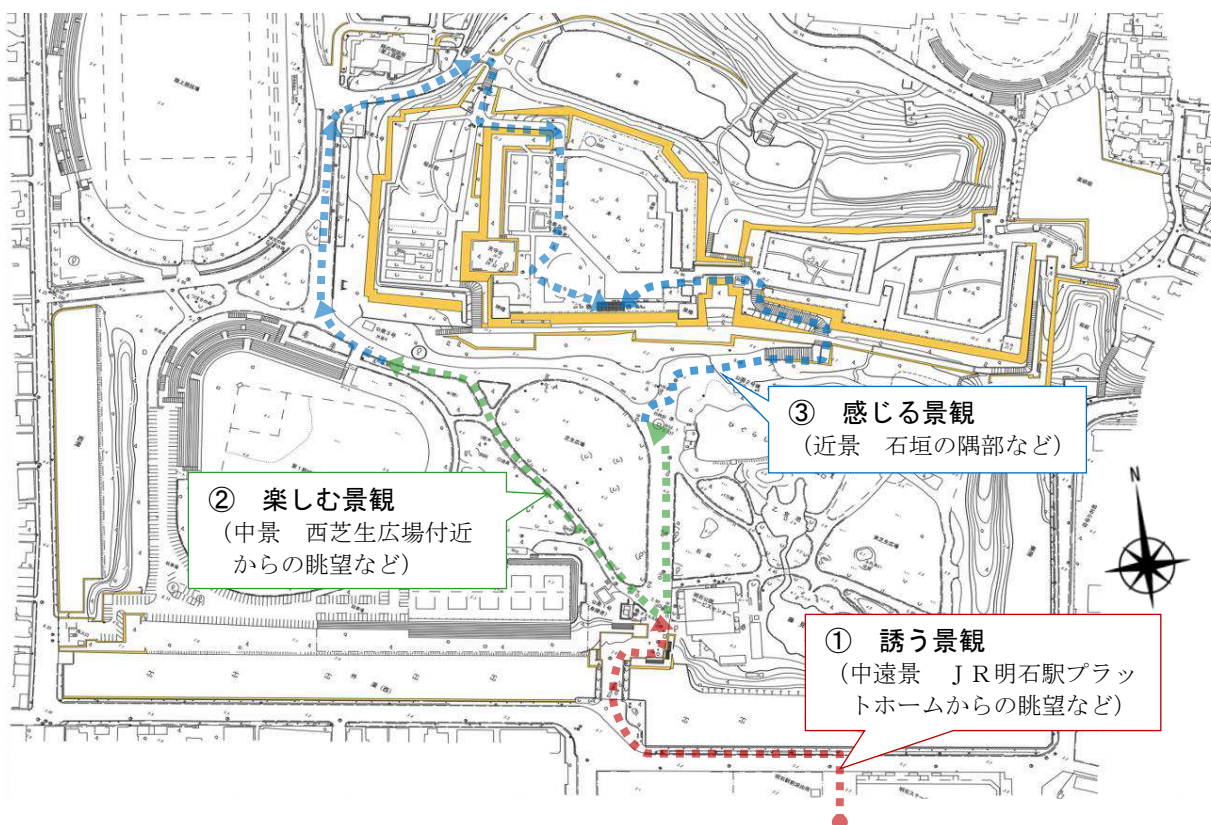
JR明石駅から城の存在を知らしめる櫓と全長380mの石垣からなる統一感のある景観を見せることで、近くで見たいとわくわく感、期待感を膨らませる景観づくりを行う。

② 楽しむ景観（中景：西芝生広場付近からの眺望）

期待を胸に足を進めるが、駅を出た後、明石城の姿は一向に確認できない。正面入り口を通り、園内へと足を踏み入れると再び姿を現す明石城の威容に来園者は驚く。そこから正面園路（もしくは西側園路）を歩いていくと明石城の雄大な石垣、両櫓が輪郭を現し、来園者の驚きは城郭を訪れた楽しみに変わる。

③ 感じる景観（近景：石垣の隅部）

園路をさらに進み、より明石城に近づくと、一度全貌を現した明石城が再び樹木によって見え隠れする。より見やすい場所を探すためさらに近づくと、石垣の高さや、二段になっていることなどに気づく。櫓の下で歩を止め、櫓を見上げると、江戸時代から残る櫓・石垣が、間近に控えており明石城を感じるができる。特に扇の勾配と言われる反りを持つ石垣の隅部は美しくは明石城の白眉と言える景観である。更に石段を登り、本丸に足を進めると櫓が姿を現す。櫓は、中景から見て感じた以上の大きさがある。そこから、城としての多種多様な景観を楽しむことができ、400年の時空を感じる。



主要動線における眺望

動線

- 明石駅→堀→大手門（正面入口）→サービスセンター→こども広場→稲荷曲輪西側→桜堀→本丸へ
- 明石駅→堀→大手門（正面入口）→サービスセンター→日時計→帯曲輪南側階段→二の丸へ
- 東の丸入口→東の丸→二の丸→本丸へ

1 JR明石駅ホーム

23 パピオス明石

23 ホームから両櫓および石垣を主景とした遠景である
 ・（課題）石垣の高さが感じられない

1 両櫓および石垣が一望できるパノラマ景観である
 ・（課題）樹木により石垣が視認しづらい

5 両櫓および石垣を主景とした中景であるが、手前の樹木が石垣・櫓への視界を遮っている

6 異櫓が近距離で仰観できる

17 石垣を主景、桜を添景とした景観である

7 石垣が視認できる

21 石垣が仰観できる

18 石垣を主景、桜を添景とした景観である

9 石垣を主景、桜を添景とした景観である

9 石垣が視認できない
 ・（課題）樹木により、石垣が視認できない

11 石垣が視認できない
 ・（課題）樹木により、石垣が視認できない

11 坤櫓が視認できる近景である

10 石垣を主景、桜を添景とした景観である

20 明石海峡大橋などを対象とするパノラマ景観が広がる

15 石垣が視認できない
 ・（課題）樹木により、石垣が視認できない

12 石垣が視認できない
 ・（課題）樹木により石垣が視認できない
 ・（課題）トイレが眺望を阻害している

13 石垣が視認できない
 ・（課題）樹木により石垣が視認できない

14 水面に映る石垣の倒景が視認できる

22 本来、奥の石垣を焦点としたヴィスタ景観であるが、石垣が見通せない

22 樹木を障りとし、奥に石垣が見える透景である

3 堀が一望できる
 ・園内は視認できない

4 石垣を主景、樹木を添景とした近景である

4 石垣が視認できない
 ・（課題）異櫓が視認できない

5 坤櫓が視認できる

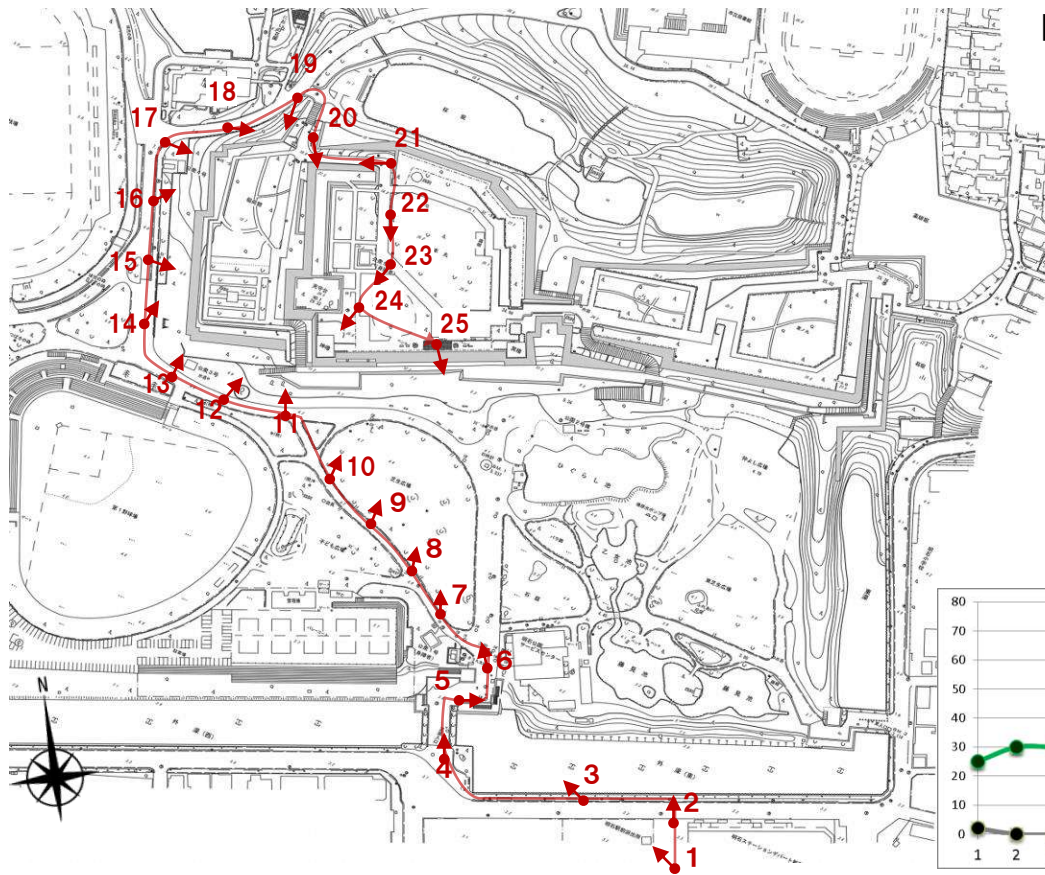
8 両櫓を障害なく視認できるパノラマ景観である
 ・（課題）石垣前の樹木により石垣の高さが感じられない
 東側の石垣が視認できない

8 手前のクスノキが障りとなっているが、櫓および石垣が見え隠れし、奥へと足を進めたいくなる

3 石垣天端および後背地の樹木により櫓が視認できない

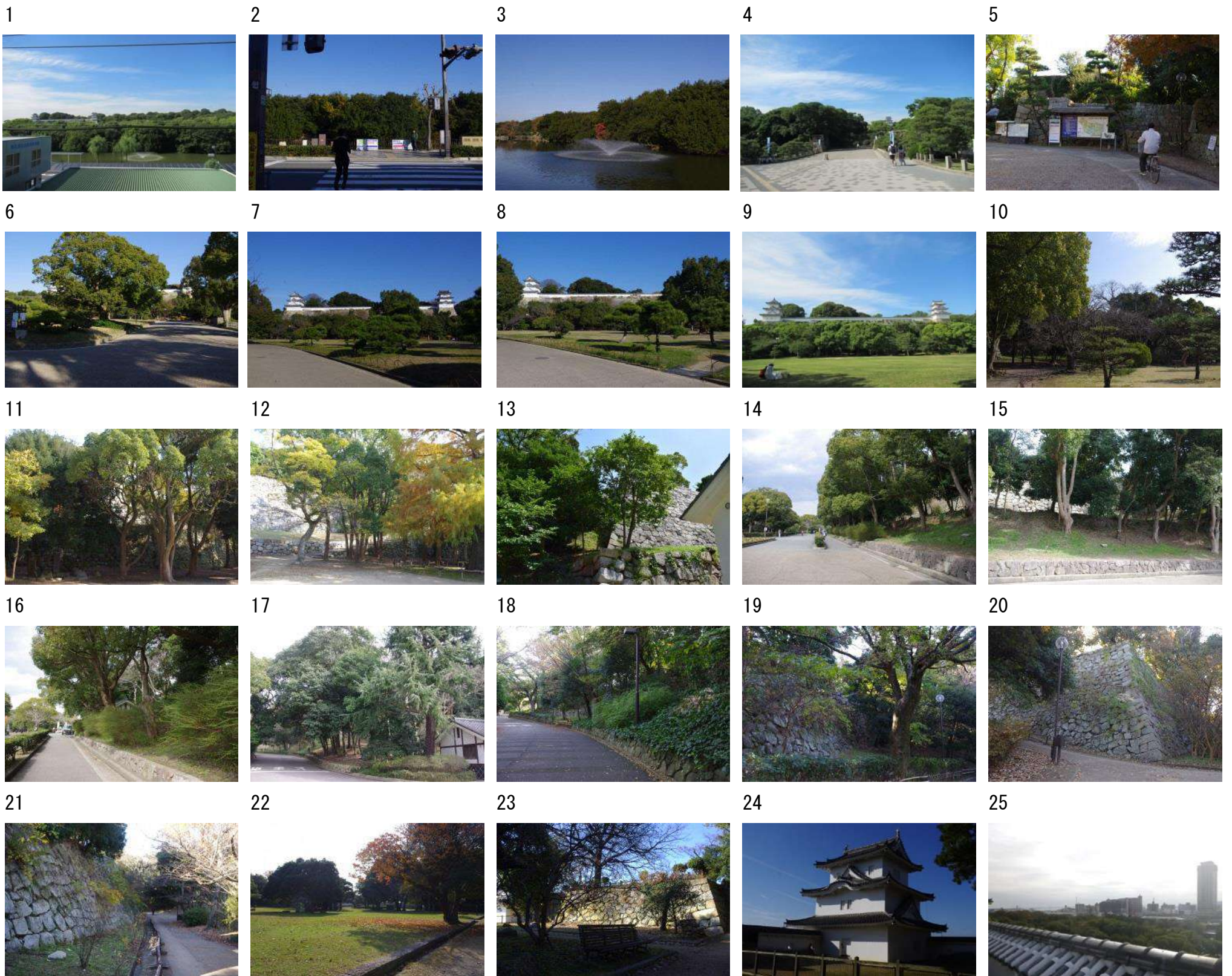
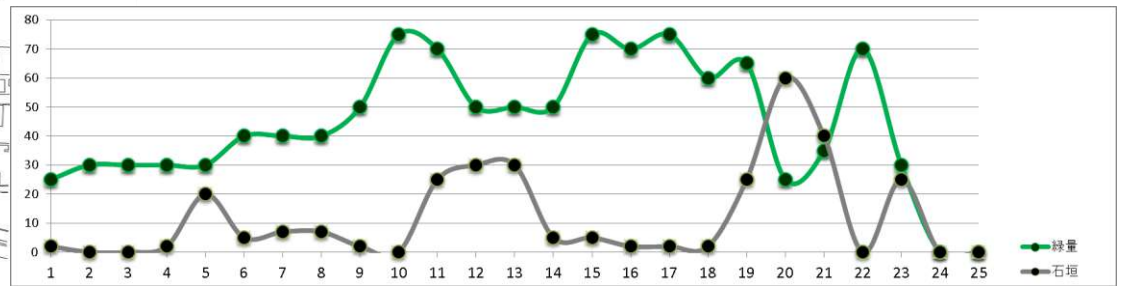
■ルート①のシーケンス景観のストーリー

明石駅 → 堀 → 大手門（正面入口） → サービスセンター
 → こども広場 → 稻荷曲輪西側 → 桜堀 → 本丸 へ



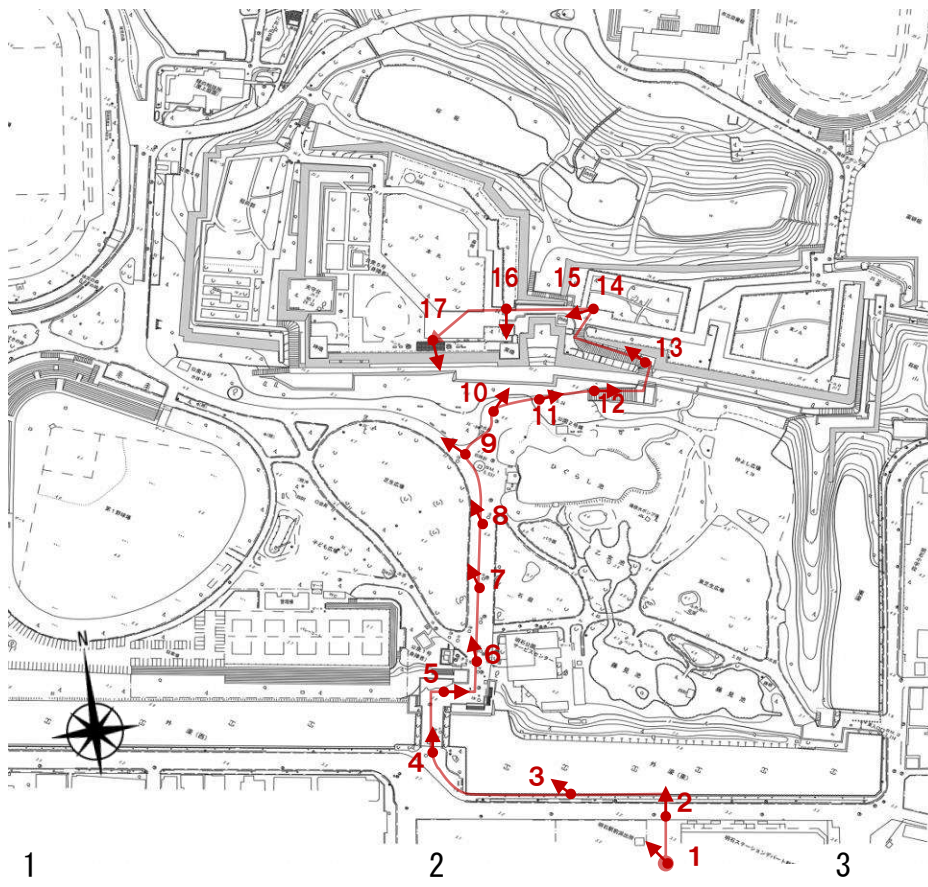
【ストーリー】 所要時間 25分

- ① 誘う景観（中遠景：JR明石駅プラットフォームからの眺望）（写真1-5）
 駅ホームから明石城の全景を確認させ、来園者の期待を高める。
- ② 楽しむ景観（中景：西芝生広場付近からの眺望）（写真6-9）
 雄大な石垣・櫓と緑の織りなす景観により来園者を楽しませる。
- ③ 感じる景観（近景：石垣の隅部）（写真10-25）
 石垣直近や帯曲輪、本丸において石垣の隅部や櫓で城らしさを感じさせる。



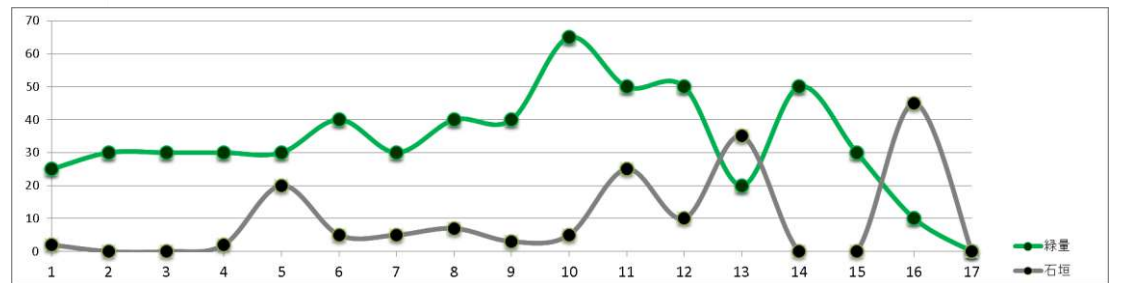
■ルート②のシーケンス景観のストーリー

明石駅 → 堀 → 大手門（正面入口） → サービスセンター
→ 日時計 → 帯曲輪南側階段 → 二の丸 → 本丸 へ



【ストーリー】 所要時間 15分

- ① 誘う景観（中遠景：JR明石駅プラットフォームからの眺望）（写真1-5）
駅ホームから明石城の全景を確認させ、来園者の期待を高める。
- ② 楽しむ景観（中景：西芝生広場付近からの眺望）（写真6-9）
雄大な石垣・櫓と緑の織りなす景観により来園者を楽しませる。
- ③ 感じる景観（近景：石垣の隅部）（写真10-17）
石垣直近や帯曲輪、本丸において石垣の隅部や櫓で城らしさを感じさせる。



1



2



3



4



5



6



7



8



9



10



11



12



13



14



15



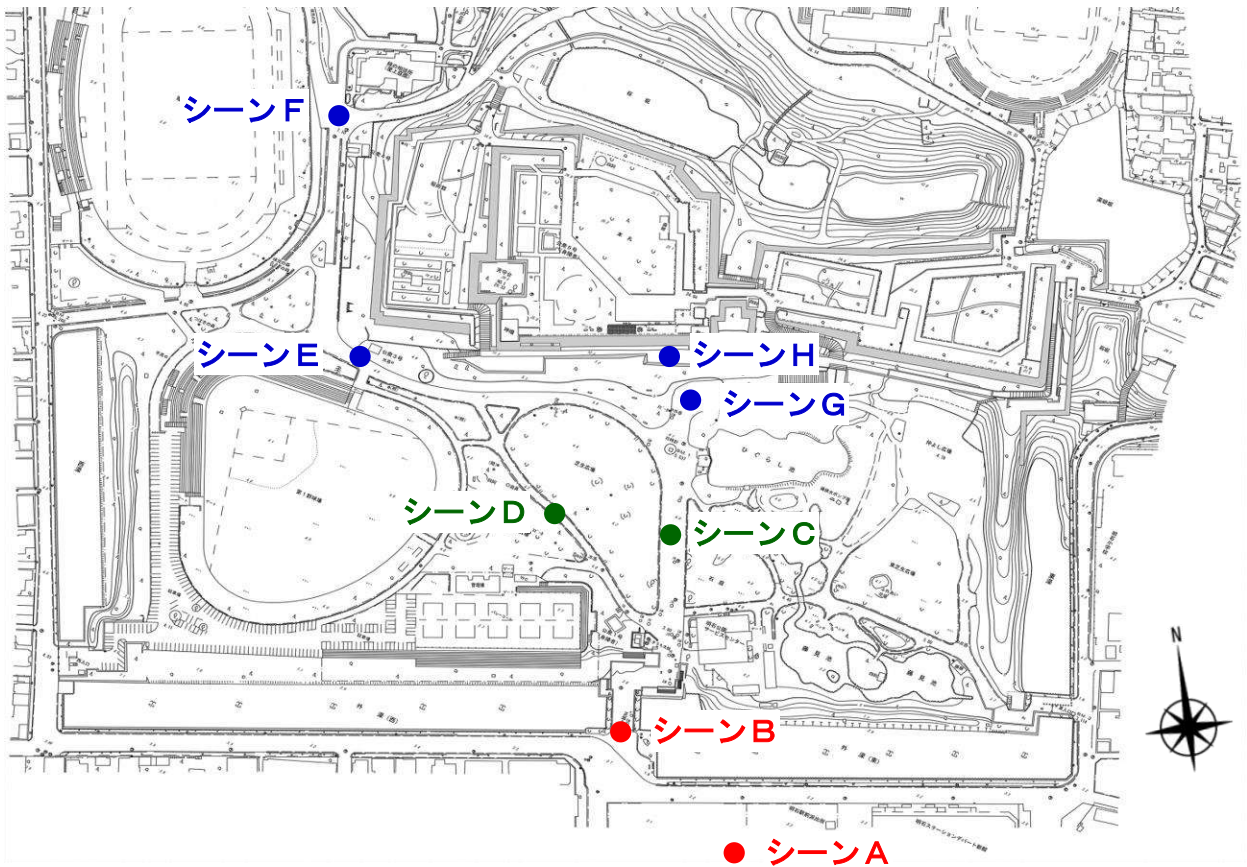
16



17

3-3. 視点場の設定と見せ方の設定

主要動線上において、明石城のみどころを観ていただける地点を視点場に設定する。



主要動線における視点場

凡 例	
● (Red)	中 (遠) 景
● (Green)	中 景
● (Blue)	近 景

主要動線における視点場とシーケンス景観

■視点場
主要動線上で特に優れた眺望を持つ地点

■シーケンス景観
視点場からの眺望および視点場間の移動により変化する眺望の集合体



- 動線
- 明石駅→堀→大手門（正面入口）→サービスセンター→こども広場→稲荷曲輪西側→桜堀→本丸へ
 - 明石駅→堀→大手門（正面入口）→サービスセンター→日時計→帯曲輪南側階段→二の丸へ
 - 東の丸入口→東の丸→二の丸→本丸へ



13 シーンF



12



11 シーンE



9 シーンD



6 シーンC



5



4



3 シーンB



2



1 シーンA



23 パピオス明石

1 中（遠）景： 誘う景観

シーンA		視点場 : JR 明石駅ホーム
		視対象 : 石垣および両櫓
		景観分類 : 中遠景 / 水平景
		みどころ : 稜線
		見せ方 : 全長 380mある石垣の稜線が視認できるようにする
		選定理由 : 来園者のみならず、電車利用者も両櫓および石垣を視認できるため、明石城を印象付ける眺望となっている。
シーンB		視点場 : 正面入り口
		視対象 : 大手門跡
		景観分類 : 中景
		みどころ : 隅部
		見せ方 : 枡形の門跡と櫓が視認できるようにする
		選定理由 : 明石城の正面入口である大手門跡が視認できる。

2 中 景： 楽しむ景観

シーンC		視点場 : 西芝生広場東側園路(武蔵の庭園門前)
		視対象 : 石垣および両櫓
		景観分類 : 中景
		みどころ : 稜線/威容
		見せ方 : 石垣の稜線が視認できるよう、除伐・剪定を行う
		選定理由 : 両櫓および石垣が一望できる。
シーンD		視点場 : 西芝生広場西側園路
		視対象 : 石垣および両櫓
		景観分類 : 中景 / パノラマ
		みどころ : 稜線/威容
		見せ方 : 石垣の稜線が視認できるよう、除伐・剪定を行う
		選定理由 : 両櫓および石垣が一望できる。二の丸・東の丸の石垣も整備次第では、視認できると想定される。

3 近景：感じる景観

シーンE		視点場 : 3号トイレ横(園路) 視対象 : 石垣隅部 景観分類 : 近景 みどころ : 隅部 見せ方 : 石垣隅部が視認できるように、除伐・剪定を行う 選定理由 : 石垣隅部が視認できる。
シーンF		視点場 : 稲荷曲輪西側園路 視対象 : 石垣隅部 景観分類 : 近景 みどころ : 石垣隅部 見せ方 : 石垣隅部が視認できるように、除伐・剪定を行う 選定理由 : 石垣隅部が視認できる。
シーンG		視点場 : 日時計北側 視対象 : 石垣および巽櫓 景観分類 : 近景 / 仰観景 みどころ : 隅部・威容 見せ方 : 石垣隅部と巽櫓が障害なく仰観できるように、除伐・剪定を行う 選定理由 : 巽櫓および石垣が仰観できる。
シーンH		視点場 : 帯曲輪(巽櫓下) 視対象 : 石垣および巽櫓 景観分類 : 近景 / 仰観景 みどころ : 隅部・威容 見せ方 : 石垣・櫓と樹木(サクラ)の景観を創出する(整備不要) 選定理由 : 巽櫓および石垣が視認できる。